

意思決定領域における女性参画が遅れる日本社会を、男女が等しく支え合う社会へ。

京都女子大学 ジェンダー教育研究所

～ジェンダー平等の実現に貢献できる女性を養成する、研究と教育の拠点～

京都女子大学は、教員の研究活動や社会連携など“社会のための女子大学”の姿をお伝えするニュースレターを発信しています。今回は、ジェンダー平等の実現に貢献できる女性の養成を掲げ、2022年10月に開設した「ジェンダー教育研究所」をご紹介します。

【ジェンダー教育研究所 開設の背景】 意思決定の場に女性の参画が少ない、日本社会の現状を変えるために。

日本社会を支える女性人材の教育に力を注いできた京都女子大学は、文学部、発達教育学部、家政学部、現代社会学部、そして女子大学として初の法学部とデータサイエンス学部を有する女子総合大学です。

しかし日本社会は、諸外国と比べて政治・経済分野における男女格差が大きく、特に意思決定領域における女性参画が大きく遅れています。DVや性暴力、貧困の問題など当事者の多くを女性が占める社会的課題の解決が欧米に比べ20～30年遅れていると言われるのも、女性の意思が適切に国の政策に反映されてこなかったことがひとつの要因と考えられます。SDGsの目標のひとつである「ジェンダー平等推進」の担い手を養成するために、本学が担う社会的役割は大きいと考えています。男女が等しく支え合う社会を構築していくためには、自分の力を信じて社会で活躍できる女性を養成することが女子大学の使命と考え、「ジェンダー教育研究所」を開設しました。

■ジェンダー平等の実現に貢献できる女性の養成を目指す、ジェンダーに関する「教育」と「研究」の拠点。

「ジェンダー教育研究所」は、京都女子大学のグランドビジョン「ジェンダー平等の実現に貢献できる女性の養成」を目指す、ジェンダー研究と教育の拠点です。長年にわたり女性の政治参画の研究を続けてきた竹安栄子学長がイニシアチブを取って設置準備を進め、ジェンダー法の研究を専門とする法学部 手嶋昭子教授が所長に就任しました。

ジェンダーに関する研究機関は国内外に多く存在しますが、本学では「教育」に重点を置いて、社会に還元することを目指しています。ジェンダーに関する諸課題の解決、ジェンダー平等の実現に寄与する優れた女性人材を社会へ輩出することを目標に掲げています。

■多彩なジェンダー教育カリキュラム8科目を導入。ジェンダー研究×キャリア形成で、社会で活躍できる力を実装。

本学では、2023年度より、全学生が履修することができる共通科目に8科目のジェンダー科目群を導入しました。まずは多くの学生が「ジェンダー研究入門」を履修した後、自らを取り巻く社会と自身の人生をジェンダーの視点から考える「ジェンダー研究発展」を履修します。

2024年度から2回生が履修する「ジェンダーと研究」は、各学科から推挙された教員が専門とする研究をジェンダーの視点からオムニバス形式で講義を行う挑戦的な取り組みです。さらに多彩な職業に就く卒業生のリレー講義など、自分に向き合って将来のキャリアを考え、社会で活躍できる力を実装するキャリア教育を連動させています。

またジェンダー教育研究所の活動に参画する学生有志と学長のランチミーティングを定期開催し、学生が身近に感じたジェンダーの課題を取り上げ、活発な意見交換も行っています。



ジェンダーの課題を学生有志が学長と議論する、ランチミーティング

■ジェンダー教育の学内助成プログラムを開始。教員・職員・学生から公募で採択されたジェンダープロジェクトを推進。

2023年度からは学内公募型のジェンダー平等推進の助成プログラム「未来を創るプロジェクト」をスタートしました。教員・職員・学生がそれぞれの立場の垣根を超えて、あるいは協働して応募できる本プロジェクトでは、9月下旬まで学内公募を行い、10月中旬には採択プログラムを選定。採択されたプロジェクトを数ヶ月かけて推進していく予定です。このような取組を通じて、学生に対する教育効果はもちろん、教員や職員にもジェンダーについて考えてもらう契機にしたいと考えています。

<本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先>

- ・京都女子大学広報デスク（プランニング・ポート内） 福嶋・小宮・井上 TEL：06-4391-7156 FAX：06-4393-8216
- ・京都女子大学入試広報課 北山・堀川・竹縄 TEL：075-531-7054 FAX：075-531-7222
- ・京都女子大学HP <https://www.kyoto-wu.ac.jp>